

いいあさファーム通信

令和3年新年度特別号

令和3年度が始まりました 今年度もよろしくお願ひいたします。

施設長 吉田海太郎

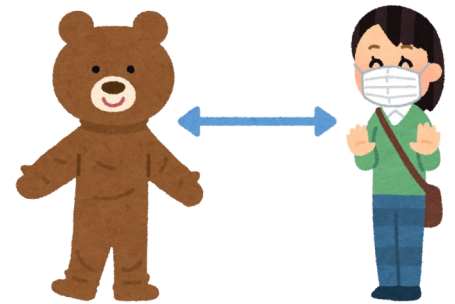
ごあいさつ

毎年、桜の咲く季節が早くなってきておりますが、いいあさファームがあります成木地域は少し遅く、ちょうど満開の時期になります。今年の桜はいつも以上に色濃く見えます。

令和3年度、いいあさファームは5年目になります。ご利用者とご家族、保護者の方々、関係機関や近隣地域の方々のご協力とご理解があつてのことと思います。平成29年4月に始まつたいいあさファームは、始めは2人のご利用者の方の利用からスタートでした。まだまだ、畑もガタガタ、でも作業室はピカピカです。それがこの4年の年月の中で、畑にはたくさんの作物が植えられるようになり、耕作地も広がっております。作業室も皆さんの作業に費やしたチカラが跡になって残っています。またご利用者の皆さんの大きな経験と少しずつの積み重ねが畑の作物と同様に、たくさん実つてきております。今年度は、様々な取り組みに向けて、また新しい様式を取り入れながら、5年目から10年目に繋がるように励んでまいります。

●新型コロナウイルス対策

昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大により、社会情勢だけでなく経済活動も大きく様変わりしてきております。感染拡大防止策を講じる中で、新たな様式を取り入れながら、いいあさファームも活動を行つてきました。みなさんにはマスク着用やアルコール消毒、ソーシャルディスタンスなど窮屈な思ひをお願いしております。今年度になつてもコロナウイルスの驚異は変わらず、感染防止策の徹底をお願いさせて頂き、体調管理に努めてまいります。3月に職員全体でコロナウイルスのPCR検査も実施し、陰性の結果が出ており現状は皆さんのご協力のおかげで、感染者が確認されておられません。今後、コロナウイルスのワクチン接種に向けて各自治体からの案内などあるかと思ひますが、いいあさファームとして感染拡大防止の観点から、可能な限りワクチン接種のご協力をお願いいたします。



先日、厚生労働省より、接種順位上位に位置づける基礎疾患として、療育手帳（愛の手帳）・精神障害者保健福祉手帳を所持している方、自立支援医療制度を利用されている方も該当されるとのお知らせを頂いております。ワクチン接種については各自治体に合わせていただけるようお願いいたします。

「詳細はこちらです ⇒https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000192554_00007.html」

今年度もコロナウイルスの感染防止策を講じながら、5年目のいいあさファームの活動を行つてまいります。

昨年度は、コロナウイルスの影響もあり、活動が制限された中での取り組みとなつてしまいました。そのため、生産物（畑での作物や水耕栽培による発芽にんにく）の減産、売上の低下など社会情勢と同様に、いいあさファームでも経済活動に支障が来ております。昨年度に関しては、東京都の助成もあり、ご利用者の活動を継続することができておりましたが、今年度からは、新しい様式を取り入れながら少しずつ工賃向上にも努めてまいります。

●令和3年度の取り組みについて

今年度は、障害特性に応じたグループでの取り組みを、さらに課題別に分けることで、なるべく集団を作らない状況で取り組んでいきます。グループごとの横断的な取り組みも実施することで、プログラムの充実を図ってまいります。みなさんが楽しめる場面づくりに取り組んでいきます。

令和3年度のいいあさファーム基本方針は「あゆみをそろえる」をコンセプトに支援を組み立てていきます。昨年度、利用者支援について心理的虐待を東京都から虐待事案として認定されました。この度の件につきましては、職員がご利用者本人のいるところで、配慮にかける不適切な言動を指摘されております。障害者サービスを行っていく上では、ご利用者ときちんと向き合う支援を取り組むことの大切さを職員に伝えてきましたが、このような事態となりましたことは、いいあさファームのご利用者、ご家族、保護者の方だけでなく、関係されております方々にもご迷惑をおかけしましたことをお詫びさせていただきます。今後は、しっかりとご利用者との関わりを大切に、職員の人材育成に取り組んで参ります。

令和2年度の基本方針として、「ともにあゆむ」を掲げて支援に取り組んで参りました。その中で上述のように、利用者支援への課題が顕在化してしまい、昨年度は基本方針に沿った支援を見直して取り組んで来ました。今年度の「あゆみをそろえる」は、昨年度の「ともにあゆむ」からご利用者視点にきちんと立ち返り、常に寄り添いながらご利用者のリズムを把握して、みなさんの成長に合わせた支援の実施を行っていくこととなります。「あゆみをそろえる」を基本姿勢に改めて掲げることで、利用者支援をそれぞれの職員が自身の支援に取り組めるように努めていきます。

また利用者個別支援プログラムの充実を図ることで、職員が支援の目標や行うべき支援を見出すことができることを期待し、みなさんのリズムにあわせて、あゆみをそろえる取り組みを行います。



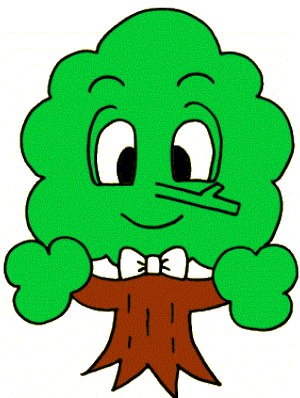
●いいあさファーム運営方針

いいあさファームの運営方針として、今年度も引き続き安心して作業に取り組めるよう、個々の能力や適正に合わせて作業を行い、それぞれの方がやりがいを持って働ける環境を作っていきます。

作業に関しては農耕作業を中心とした取り組みで、青空のもと・のびのびと身体を動かし・陽の光を受けて・季節の変化を感じ・自然の恵みを育み・一緒に大きくなっていくことを目指し、いいあさファームの特色をみなさんと見出していきます。

それぞれの方が、チカラを発揮できる場面づくりを行っていきます。ステップアップに応じた取り組みや、生活リズム、体力面などに考慮した配置など柔軟に対応していきます。

作業課題別のグループ編成を行う中で、職員の人員配置も分けることで、みなさんに寄り添った支援体制に対応していきます。ご利用者の高齢化、また新規利用者の重度化が今後の課題となっており、支援者がみなさんの課題に対応できる技術とチカラを培って行けるように、みなさんが目標を持った取り組み、目的を持った作業を行えるように支援を行ってまいります。



●作業への取り組みについて

一人ひとりの、支援計画をこれからのあるべき姿に基づき、半年後・1年後・5年後の姿に近づけるためのプログラムづくりを行っていきます。障害の幅や特性にかかわらず、それぞれの方が集中して、取り組める作業の構築を目指し、仕事や作業に取り組むための準備性を課題に落とし込み、課題に取り組むことで、少しずつチカラを身に付け、生産性に関わる作業や、自身の表現を創作的に表出できる作業に結びつけていきます。



作業への取り組みだけでなく、集団生活の中でのルールやマナーを身につけてもらうための取り組みをプログラムに取り入れ、みんなが一緒に楽しく過ごせる場面づくりを目指していきます。また、身体作りへの取り組みを行うことで、ウイルスに負けないようにしていきます。体力面や免疫力の向上にもつながってくると考えております。

畑での取り組みに関しては、昨年度から敷地ウラに農地を借り、作付面積が広がっています。昨年度は農耕地の開拓を行い、今年度から本格的な作付けを、敷地内農地と合わせて取り組んでいきます。昨年に設置したビニールハウスを活用して、年間通して栽培できる葉物野菜の生産もしてまいります。生産物は近隣の障害者事業所からの生産委託を請負、安定した売上につなげてまいります。

●今後の取組について

青梅市では55年前からドイツのポッパルト市と姉妹都市交流を行っております。ポッパルト市から寄贈されたぶどうの苗を自立センターと成木農業者振興会が育てて、ぶどうを収穫し練馬区と山梨県のワイン加工場で加工をお願いし、「ポッパルトの雫」というワインを青梅市の酒屋にて販売されています。

この、ぶどうの生産を青梅市の事業として捉えて、今後いいあさファームでも取り組むことができることを検討していきます。今年度は、昨年剪定されたぶどうの枝を挿し木での定植を目指して取り組んでまいります。

また、青梅市成木地区では昭和の中頃まで、蚕による養蚕産業が盛んな地域だったとのこと。令和になった成木に蚕による養蚕ではなく、農業としての綿花を栽培し、織物への加工を目指していきたいと考えております。

昨年度新たに借りた作業場の一部を活用し、日の当たる箇所での育苗作業を行います。農産物の価値を高めていくため、無農薬・有機栽培・自家生産に取り組む循環型のリサイクルを検討していきます。

◎社会福祉法人年輪の理念：「障がい者が活躍できる社会の創造」

～人とのかかわりをひろげ、輪としてつなげていく～

いいあさファームの支援方針

- ・わたしたちは 利用者の人権を尊重します
- ・わたしたちは 利用者の自立を促す支援を行います
- ・わたしたちは 利用者が社会で活躍できるチカラを身につける支援を行います

令和3年度 いいあさファーム とりくみ

● グループ別による支援

・新型コロナウイルス感染防止に力を入れ、みなさんが集団にならないように配慮して作業を行っています。

・みなさんそれぞれに合わせた今までのグループでの作業を、さらに課題別のグループに分けることで、なるべく集団を作らないように取り組んでいきます。

・グループごとに同じ取り組みを行い、プログラムが充実できるように取り組んでいきます。

・みなさんが充実した毎日を送れるように、楽しめる場面づくりに取り組んでいきます。

● 個別支援プログラムの充実

・みなさんに合わせ、目的に沿った支援計画を作成し、みなさんとともにあゆむことで、作業への取り組みにつなげていきます。

・職員がみなさんと「ともにあゆみ」、「あゆみをそろえる」視点から本人らしさを引き出し、できることを増やしてゆく支援に取り組めます。

● 新しい事業所を計画しています

・いいあさファームでは、畑での農産物の生産が主な活動になっております。今後は、生産だけでなく、加工品も取り組みながら、みなさんの活躍できる場をたくさん作っていきます。

・アクセサリーだけでなく、新たな創作活動を取り入れながら、みなさんの感性を発揮できる作品作りに取り組んでいきます。

・集団が難しい方や、みんなとリズムが違う方への配慮をした作業ができる環境づくりをすすめていきます。